

妙法華寺便り

令和7年10月号

いのちの合掌

2031年は日蓮聖人の750遠忌です。6年後に向けてお題目を唱えていきましょう。



和尚さんのよろず話

お寺の周りでは稲が実り、稲刈りが次々行われています。昨年から引き続き、お米が高騰したままで生活を圧迫していますが、農家さんの労力や苦勞を考えると仕方の無いことのように思います。お米だけでなく生活のすべてにおいて物価高が続き、「今、どのように生活し、この現状を切り抜けるか」

「どのようにして将来に備えるか」と考える一方で、「どうにかならぬか」「どうにかしてくれ」と他力にすぎる思いも打ち消せません。「実りの秋」、「秋の夜長」など情緒豊かで気候も穏やかで全てに満たされているように感じる「秋」ですが何とも暗い気持ちになってしまいます。

さて、10月13日は日蓮聖人のお亡くなりになられた日です。この日の夜を「お逮夜」といい、翌日を「御会式」として、旧暦で、新暦で、近い日にちでと各寺院によって異なりますが、毎年全国各地で法要が行われています。庭瀬組寺のほとんどの寺院が11月中に行います。

日蓮聖人は弘安5年辰の刻61歳でお亡くなりになり、今年は744回の遠忌となります。この長い期間、多くの人々に供養をしていただける事は聖人の偉業の為だと思います。そして、その聖人は自分を支持し続けている人々をお守りくださっています。日蓮聖人はお釈迦様の説かれた「法華経」を苦しい民を救う為に布教してまわり、時には当時の幕府にもの申し、弾圧され、佐渡へ流され、それでも布教を止めませんでした。一方で支持してくれる人々には、こまめに手紙を書き、寄り添い、心を砕きました。その蓮聖人が目指された「世界の平和なくして個人の平和はない」の精神は現代にも通ずることです。いきなり「世界平和」と言われても「何をどうすればいいのか」となります。そこで日蓮聖人の精神を基として逆に捉え、まずは各家の平和と子孫を見守り続けてくれている先祖の供養を基本とし、心を安穏にするためにお題目を唱えてください。そして地域や周りの方との円満な関係を広げていくように心がけてみましょう。自分の住まわれている場所の歴史にも興味を持ってみるのもよいと思います。

また機会があれば法華経や日蓮聖人の書かれた手紙などの内容を紐解いて見るのも良いと思います。きっとその中に困難を解決するヒントがあるはずです。合掌



◇ 行事報告 ◇

9月18日（木）摩利支天月例祭



堂内の読誦会に先立ち、長年当山の世話人を引き受けて下さった故前原仁様の霊位に向け、檀家の方々とお自我偈を読誦し、焼香をささげ、長年の功労に感謝の誠を捧げさせていただきました。その後、読誦会、引き続き摩利支天堂にて法楽を行い、家内安全・身体健全等の祈念を申し上げさせていただきました。

9月20日（土）秋季彼岸・施餓鬼会

午後1時より、庭瀬組寺のお上人方と共に秋季彼岸法要（施餓鬼会）を執行いたしました。檀信徒の皆様より申し込まれた塔婆1体1体に水向けを行い、香を焚き、お経を唱え、ご供養いたしました。皆様ありがとうございました。また、当日のお世話・ご接待、準備、片付けをして頂きました総代世話人をはじめお手伝いいただきました方々に感謝申し上げます。



今年もお地藏様の赤い服が、富山直子さんのご供養により、新調されました。
ありがとうございました。

◇ 行事案内 ◇

摩利支天月例祭

11月は16日（日）御会式の本堂法要に引き続いて行います。12月18日（木）は本年最後の式典です。午前10時より執行いたします。ご参加下さい。

御会式法要

11月15日（土）お逮夜・翌16日（日）に執行いたします。15日は午後6時より、16日は、午前10時より一座目、午後2時30分より最終座を始めさせていただきますので、どうぞお参りください。（16日の一座目と最終座の間は随時）、10時の法要後に別紙案内の通り摩利支天月例祭を行いますので、ご参加下さい。

妙法華寺便り9月号でもご案内させていただいておりました「御浄財」を宜しくお願いいたします。また、お寺から直接案内させて頂く檀家の方には、振り込み用紙を同封させて頂いておりますので、宜しくお願いいたします。

◆ 戸守経のご案内 ◆

11月に入りましたら、近郊のお檀家の方には、年末の「戸守の御経」の連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。また、新年を迎えるにあたり、台所・トイレ等の紙札を希望される方は、お寺までご連絡下さい。合 掌

